

北海通
札幌

御辰村
大文字

八田三郎
友台



四月十五

東京市日本橋區西河岸町六番地

島平
旅館

平野平四郎

電話本局
特長
長一三八八番
番
平野平四郎



神皇正統記

卷之四十九

神皇正統記

卷之四十九

法皇

神皇正統記

神皇正統記

神皇正統記

神皇正統記

神皇正統記

神皇正統記

神皇正統記

神皇正統記

神皇正統記

神皇正統記

遊学記

その頃のものゝあつたといふ

し現在の状態とて

少くとも五千其他数

人株を成株にする

のふつと五千討一

あり一系ある集の

並大行へ行か

其上の百と一

見かつる事

は降る先づ

とし成るはの

こゝ(即ち成績を

夏に増進する

米ならしむ

明の加

（即ち成神金部）
（い微友のい）

夏、増資するに良

米ならしむるに

少生と明か多子

（あまのい）
（い）

古より人のい

まれこころを

い十九のい

い日先見物

いをい

い

い

い

い

い

何
時の事

の由先

時を誤る所と云ふは

仁子如子而鏡山如

氏諱の正之向去夜

を徳君の事と云ふ

小から君の相違あり

昔の事故の事と云

厄付の事と云ふ

余皇の御事

羞し之を甚く懐か

る事

一途やうしがたふ

可